



File
05

有限会社 エスイーシー

- 所在地: 宇佐市大字上田1224
- TEL: 0978-32-0428
- 事業内容: 電器部品製造業
- 雇用人数: 健常者23人 障がい者4人
- 沿革: 1972年 有限会社瀬口モータースとして設立
1990年 有限会社エスイーシーに変更

個々の能力を引き出し、仕事の経験を積んで やがて社会で生活できる「力」を見に付けさせたい

現在の障がい者の雇用状況等について

■ 雇用している障がい者の状況

全員が知的障がい者。年齢層は20代から50代。地道にこつこつと進める作業が多いが、慣れれば知的障がい者には働きやすい職種のひとつ。

■ どんな仕事をしているか

インバーター用固定抵抗器や産業用ロボットの抵抗器、電力変換装置など細かい作業を必要とする電器部品製造に関わる作業全般で、障がい者は健常者と同様に働いている。

塗装など一部の工程では障がい者に完全に任せている。



工場内の様子

障がい者を雇用して良かった点

地道にこつこつと働く。休まずに作業に取り組む。納期が迫ってくると、自主的に残業をしたり、休みの土曜日も出勤して、一人でも多くと作業をし、自分の役割を果たそうとする。

一度仕事を覚えれば一つの工程を安心して任せられることができる。

コメント

■ 障がい者雇用担当者

代表取締役社長 瀬口 高司さん



個々の能力が成長していく過程を見られるのが一番うれしい。会社で経験を積んで、自分もやればできるという気持ちを持って、やがては社会で生活できるようにまで育ててほしいと願っています。

障がい者たちは限られた社会にいたいと思われがちですが、実は外に出たいと願っている人が多い。もっと外で働く機会を増やし、会社で経験を積むことでそれが自信へと変わっていくと感じています。

■ 現職障がい者

富田 好幸さん



組み立て作業をしているが、自分の作ったものがだんだんと完成品になっていく、その過程を見るのがうれしいです。

従業員のおばちゃんたちがとても気さくで、とてもかわいがってもらっています。今は原動機付自転車の免許取得と、趣味の囲碁を勉強しています。

またバスケットボールも楽しんでいて、秋田わか杉国体障がい者スポーツ大会にも出場しました。



Let's Open up
the future together
OITA
2008

プロセス

STEP 1

■ 雇用スタート時の状況・雇用を始めようと思ったきっかけ

知的障がい者が住む糸口通商寮に勤める友人から、障がい者の方たちを働かせてみないか？と紹介された。どんな程度かわからなかったが、当時は人手不足だったため、ためしに1人を受け入れることに。

この方がとても真面目で覚えもよかったので、半年間の実習期間を経て正式採用することにした。

その後も受け入れを続けているが、最終的には4人が残った。



STEP 2

■ どんな問題点にぶつかったか

一人目を採用するまで、社長はもちろん、従業員一同、障がい者との接点を持つ人がいなかったため、まずどのように障がい者と接すればいいのかわからなかった。さらに仕事の指導方法もどのようにすればいいか、手探りの状態からスタート。当初は社長が付ききりで対応。

声かけから始まり、毎日、前日の作業の反復をして、少しずつ仕事の量を増やしていった。

STEP 3

■ それに対してどんな改善策を取り、工夫をしてきたか

① うまくいっているところ

自分の子どもを育て、しつける感覚で対応していたら、だんだんとお互いに距離が縮まってきた。

毎日声かけを繰り返し、覚えるまでは前日やったことを繰り返し教えることで障がい者が安心して働けるようにサポートしている。



作業しやすい塗装用パイプレーター

② 現在の社内でのコミュニケーション

幸い共に働く健常者の理解があったので、全員が自分の作業をこなしながら常に、障がい者に意識を向けてくれている。

仕事に関する声かけはもちろん、生活態度など、ライフサポートにまで範囲が及ぶこともあるが、従業員の温かいサポートのお陰で、仕事もプライベートも順調のようだ。

③ サポート体制

障がい者でも健常者と同じ仕上がりになるような機械の設置を進めている。

例えば商品に均一に塗装できる「塗装用パイプレーター」を設置することで、非常に繊細な作業であっても、慣れれば障がい者でもできるようになった。

現在この工程は、一人の障がい者に完全に任せている。



パイプレーターを使って塗装する富田さん

社内環境

- ・ 知的障がい者の実習生の受け入れは随時行っている。
- ・ 障がい者がより作業しやすい機器の開発、改良も常に進めている。